



毎月十五日発行 所 社 会 大 像 宗 像 定価 一年送料共 1000円

神具・装束 結婚式場用品 福岡店 福岡市博多区東公園二一三二番地

節分祭齋行

春の足音が聞こえる追儼の儀式



本年の災難消除と開運を祈る恒例の節分祭が、立春の前日、二月三日午前十時より当大社祈願殿に於て齋行された。

「節分」は、二十四節氣の一つである立春の前日にあたり、曆の上では冬の季節が終り、春の季節に移る節目とされている。従つてこの節分の時期は、季節の変わり目で、陰と陽とが対立して邪氣を招き、災禍をもたらすといわれている。

室町時代中期以降、各地の社寺で節分祭として盛んに行われるようになり、中国明代の豆打ち行事なども加わり現在のようになつたとされている。

室町時代中期以降、各地の社寺で節分祭として盛んに行われるようになり、中国明代の豆打ち行事なども加わり現在のようになつたとされている。

室町時代中期以降、各地の社寺で節分祭として盛んに行われるようになり、中国明代の豆打ち行事なども加わり現在のようになつたとされている。

昨年厳肅かつ盛大に御大典の諸祭儀が齋行され、本年文字通り平成の新たな御代がはじまつた。大嘗祭以後数度に及ぶ饗宴に臨まれた陛下は、その後神宮への御親拝、御自らの御誕生日に

それを御自らは、播種からお始めになつたという事実からも予想されたことと申せば、我われ国民にとって、やはり恐懼感の極みである。

筆者はまだ昭和天皇御健勝の頃、あつた宗教関係の会合で、二人のキリスト教者が、昭和天皇さまは御幼少の折から特別な天皇教育をお受けになつておられるが、当時の皇太子殿下、今

上不快の言に接することを抑えた自分喜びとし、この大御代に生きる幸せを感得している。

早、山台高裁において、先の国家と宗教との関係に対して出された最高裁判所の判決は、先の大嘗祭を経て累積されて来た性格のものだからである。

早、山台高裁において、先の国家と宗教との関係に対して出された最高裁判所の判決は、先の大嘗祭を経て累積されて来た性格のものだからである。

新たな御代への覚悟

漏れ承るところ、今上陛下は御親祭に際し、いちいちの祭儀及び御所作に至るまで、その意義について仔細に御下問遊ばされ、御心に御承得の上、御奉仕遊ばされとのことである。

上さまは、その占御成育の過程が全く異なつてゐる。恐らくお代が御親祭以後は、日本の天皇、そして当然天皇制にも、大きな変化が期待される。

一定の憲法の遵守いかんの問題という板面をかぶりながら、その本質は天皇制の文化的な形骸化、そしてその上での、政治的共和制を自論むる政治

この原稿を執筆中、かねてその成り行きが憂慮されていた多国籍による対イラク戦争が開始された。結核は多内

人間の眞面目は、危機に直面して露な中に住む人間共にある。権力者の権力欲とは何なのか、摩訶不思議な魅力をもつて人間を操りし力を動かす恐ろしいもの、一思い。何かか、いつて、権力の魅力ほど恐ろしいものはない。吉川英治の言葉

大島 原 節子 大寿終へし屋文道逝き給ふ 親しみ永き名を残して (評) 百歳の天寿を全うした土屋文明は生きている。



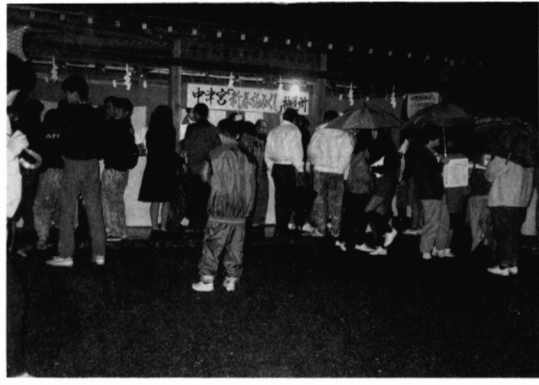
三五六回 宗像大社歌会詠草 中村 吾郎 選 毎月末日 切

延元元年(一三三六)二月、京都で敗れた足利尊氏氏は西走して筑前芦屋津へ漂い着いた。この一行を宗像大宮司氏範の家臣が迎へた。案内先の館で、大宮司氏範は「どれほどのお力になれようと思はれませぬが、まづはお心やすらかに」と懇話になつたといわれる。

大島 原 節子 大寿終へし屋文道逝き給ふ 親しみ永き名を残して (評) 百歳の天寿を全うした土屋文明は生きている。その作者の思いは「大寿」の名を残してに明らか。



# 筑前大島 中津宮の正月



終日の寒雨にみまわれた大晦日午後十一時、神木脇の大庭に点火され、浄蘭の中に赤い炎が輝き出した。神前には大島の漁家・農家よりの巨大な鯛を始め、幸・野の幸が山のように供えられ、拝殿には御大典奉祝の記念として遠藤沖之助氏の奉納の日・月錦旗が初めて飾られた。

平成三年一月一日午前零時、一番太鼓を合図に閉ざされた神門が開くと、村の氏子を始め新年を故郷大島で迎えようとする人々が、遠方より里帰りした人々が、列をなして神前に参り、本年一年の平穩無事と更なる飛躍を願う人々の打つ拍手の音が神苑に響きわたった。社頭に於ては、翼賛会丸

## 文化財防火デー

### 防火訓練実施

文化財防火デー(二月二十六日)を前に二十四日、当社自衛消防団(四十名)と玄海町消防団第一分団(四名)との合同防火訓練が行われた。

午前十一時、本殿裏の森より出火、国の重要文化財である本・拝殿に火勢が迫つたとの想定で行われ、非常ベルとともに当社自衛消防団は、太田団長の指令を受け現場に急行、ただちに巫女がバケツリレーで初期消火に当たり、施設消火班の神職は境内の消火栓や心字池にホースをつなぎ放水、頭からしぶきを浴びながら四本のホースで懸命に消火活動を行った。



文化財防火デーの防火訓練の様子。

## 氏子会永年勤続者十名表彰

井房芳会長以下会員奉仕のものと、中津宮新春福みくじが行われ、本年は特に城山家具・吉田酒造・合同酒類・アサヒビール・福博ヤンマー・「かねせん」の協賛により、特別賞も加わり、七百余本の福みくじも、午前中で全て終了し大いに賑わった。

## 献米奉告祭斎行

新春の一月十三日、午前十一時より恒例の献米奉告祭が、氏子総代多数参列のなかで厳粛に斎行された。祭典終了後清明殿に於て鏡開きが執り行われた。

## 海神事奉賛会 初会合開催

去る二月二十六日、郡内七浦の漁業関係者で構成される、当社海神事奉賛会の役員が参集、午前十一時の役員会議を開催し、本年度の大漁祈願祭を折念す大漁祈願祭が斎行されること、初会合が開かれた。

## 未年に因み浄財の奉納

新春の正月七日、宗像郡津屋崎町、特別養護老人ホーム津屋崎園の花田朝生氏が、同園の高山園長と寮母さんに付添われて当社、当社へ多額の浄財を奉納された。

## 化粧具の供献

成人の日は街中に明るさを湛がせる。新しく大人の仲間入りした若い男女が健康色に顔を染め、社会人として認められる喜びを全身で表現しているからである。

## 化粧具の供献

成人の日は街中に明るさを湛がせる。新しく大人の仲間入りした若い男女が健康色に顔を染め、社会人として認められる喜びを全身で表現しているからである。

## 化粧具の供献

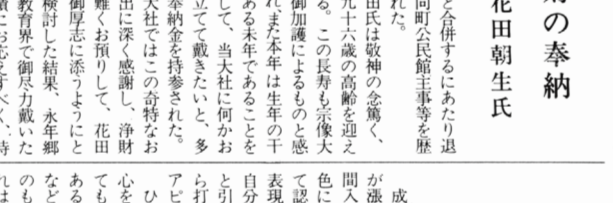
成人の日は街中に明るさを湛がせる。新しく大人の仲間入りした若い男女が健康色に顔を染め、社会人として認められる喜びを全身で表現しているからである。



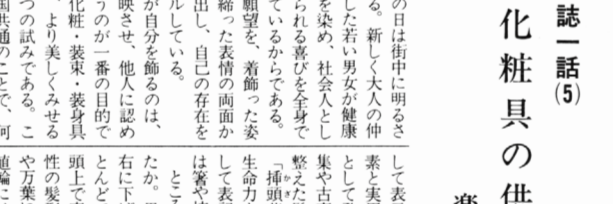
浄財を奉納された花田朝生氏。



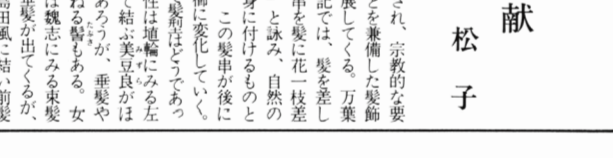
浄財を奉納された花田朝生氏。



浄財を奉納された花田朝生氏。



浄財を奉納された花田朝生氏。



浄財を奉納された花田朝生氏。



# 第三十四回宗像マラソン

## 寒風の中で練り広げられたデッドヒート



県内を始め近県各地からの参加者で賑う一月二十日(日)当大社をスタート・ゴールとする、恒例の宗像マラソン大会(主催・宗像都市体育協会他、後援・宗像大社他)が開催された。今年で三十四回を数えるこの大会は、地方マラソン大会の草創的存在であるばかりでなく、新人ランナーの登龍門としても著名で、県陸上界にとっても平成三年の長距離陸上競技のスタートを切る大会である。

本年も近年の駅伝、マラソンブームを反映、昨年師走、都大路での全国高校女子駅伝大会で健闘した、筑紫女子学園高校を始め県内外の中学・高校生、クラブに所属するランナー約八百名が参加、5kmの部(男子)

一般・学生、同高校生、同中学生、女子一般・学生、健康マラソン)と10kmの部の二部六種目で各ランナーが健闘を競った。	大会は、当大社正面大鳥居前スタート、吉田・支海中経由大駐車場前ゴールの5kmコースと、同スタート、吉田・高岡・江口経由ゴールの10kmコースで、午前十時スタートの健康マラソンの部を皮切りに、次々とスタート、号砲と共に勢いよく飛び出した選手達は参拝者や沿道の人々の声援を受けながら、寒風肌刺す中額に汗して力走、新春の宗像路でデッドヒートが練り広げられた。
尚各部の入賞者・記録は次の通りである。	
<b>〔5kmの部〕</b>	
※中学生の部	一位 有隅 賢吾(篠栗中) 16分14秒
二位 川田 久幸(粕屋東中) 16分18秒	
三位 山本 宏(香椎第) 16分18秒	
※女子の部	一位 月俣 麻貴(筑紫女学園高) 16分39秒
二位 岩野 素子(筑紫女学園高) 16分41秒	
三位 下司 則子(筑紫女学園高) 16分43秒	
※健康マラソンの部	一位 小野 光(山の手) 18分43秒
二位 花田 亜紀(篠栗中) 18分59秒	
三位 重松 和浩(笹丘小) 19分05秒	

※一般・学生の部	一位 花田 秀樹(北九州RC) 15分20秒
二位 横大路智樹(古賀マラソニック) 15分20秒	
三位 中野 敏明(古賀マラソニック) 15分43秒	
※女子の部	一位 月俣 麻貴(筑紫女学園高) 16分39秒
二位 岩野 素子(筑紫女学園高) 16分41秒	
三位 下司 則子(筑紫女学園高) 16分43秒	
※健康マラソンの部	一位 小野 光(山の手) 18分43秒
二位 花田 亜紀(篠栗中) 18分59秒	
三位 重松 和浩(笹丘小) 19分05秒	

### 宗像消防署 神湊出張所落成

昨年七月より建設中だった宗像消防署神湊出張所が竣工、去る一月十八日落成の記念式典が行われ、支海・津屋崎町内の消防・救急体制が整った。

神湊出張所は、宗像地区消防本部の出張所としては、赤間に次ぐ二番目の出張所で、当大社前を走る県道六九号線(宗像・支海・福岡線)と県道二六号線(北九州・芦屋・福岡線、別名産業道路)が交差するところに、支海町車田尻に建設された。この地は神湊街並の入口に当り、支海町内・津屋崎町北部の火災或いは災害現場であれば、十五分以内に到着出来る中心に位置し、万が一の緊急出動時には瞬時の対応が出来る最適な場所である。

同出張所は、鉄骨造二階建の庁舎で、敷地面積一・一六六㎡、建築床面積二・六三㎡、一階は事務室、車庫、浴室等で、二階が仮眠室、食堂、更衣室等になっている。総工費九百九十二万八千円。又同出張所の水槽付消防ポンプ車と救急自動車は、出光産油(株)、支海福岡ライオンズクラブ他有志より寄贈されたもので、当日の式典では寄贈式も合わせて行われた。

### 観光文化の拠点として 物産館文化施設を建設

町の観光、文化の拠点となる「観光物産館・文化施設」の建設工事がいよいよ始まり、観光の情報基地となる「観光物産展示ロビー」や、観光客や町民の憩いの場となる「喫茶コーナー」があります。

また、文化施設には、最大五〇〇人まで収容できる多目的イベントなどが行える円形の「大ホール」。小さな個展や展覧会などに利用できる「展示ホール」や町民待望の「図書室」があります。その他にも、大・小会議室、和室、調理室、工作室、視聴覚教材室など地域住民のニーズに合わせて利用できるような施設となっています。

この施設ができることで、新たな観光名所となり、また、地域のみならず、町の活性化につながることを目指しています。

(支海町企画室中野清徳記)

### 社務日誌抄

一月一日 歳旦祭  
九州旅客鉄道(株)社長石井幸孝氏外三十八名  
(宗)宗像青年会議所理事長中野和志氏外役員参拝  
一月二日 新年祭  
一月三日 元始祭  
一月四日 出光産油(株)福岡支店長長沖禎一郎氏・出光石油化学(株)福岡支店長小西章雄氏・アポロサービス(株)福岡営業所長山根泰二郎氏外関連会社社長等十七名参拝  
(株)新出光・新出光不動産(株)社長出光豊氏外三十八名参拝  
東北アポロ(株)宮正明氏参拝  
総合商事(株)宗像のがみ会館・山崎製パン(株)福岡工場・大和ハウス工業(株)福岡工場等参拝  
一月五日 福岡県交通安全協会会長木本敬次氏・福岡県警察本部交通部長笠原孝志氏外九十六名参拝  
(次ページへつづく)

## 住みよい活力あるまちづくりのため 宗像の一体化を!

社団法人宗像青年会議所  
理事長 中野和志



つりなどのイベント主流の時期を経て、現在は、行政改革や地方分権について積極的に発言、行動するようになっています。我が宗像青年会議所も、このような青年会議所のひとつです。宗像青年会議所は創立以来、常にまちづくりと人づくりを、行動指針としてきました。海岸清掃、登山道整備、釣川流域環境整備ボランティア事業等、先輩諸氏の努力が、現役メンバーの誇りとするところで、しかし、宗像をとりまく情

勢は、ここ数年大きく変化しています。アジアに目を向けた九州の中で、九州の雄傑としての福岡県の中、宗像を核とする福北大都市圏構想の中でまちづくりを考えなければならぬと思えます。宗像は、沈静化していた人口増加率も伸びていますが、今のままでは、北九州市と福岡市の中間の何のとりまもないまちなわになってしまいます。福岡市、北九州市から見れば、宗像市も支海町も津屋崎町も福岡

町もありません。宗像を一体化し、宗像を乱開発から守り、このすばらしい自然を子供たちのために残すよう一緒に考え、また、まじまじと物語しようが支海沖の24時間国際空港について、九大移転を含めた研究学園都市構想について皆で語りあいたいと思います。自然と文化のある独自のまちづくりができる活力あふれるまちにしましょう。

宗像青年会議所は、本年度の事業として、人づくりのための指導力セミナーや新入会員セミナー、まちづくりのためのふれあいまなかつまの会の支援やコスモス植栽の他に、宗像市町の合併推進をとりあげています。「宗像はひとつ」というスローガンが常に言われつつありますが、この「宗像はひとつ」という言葉の実現に向けて、合併の良い点、

### 平成二年度役員

理事長	中野 和志
直前理事長	森 正彦
副理事長	今泉 義彦
監事	全泉 春彦
副理事長	梅本 博伸
副理事長	吉武 生蔵
副理事長	吉井 英海
副理事長	石田 和志
専務理事	井上 邦男
常任理事	古賀 清和
総務・広報委員長	桜井 好

悪間に次ぐ二番目の出張所で、当大社前を走る県道六九号線(宗像・支海・福岡線)と県道二六号線(北九州・芦屋・福岡線、別名産業道路)が交差するところに、支海町車田尻に建設された。この地は神湊街並の入口に当り、支海町内・津屋崎町北部の火災或いは災害現場であれば、十五分以内に到着出来る中心に位置し、万が一の緊急出動時には瞬時の対応が出来る最適な場所である。

同出張所は、鉄骨造二階建の庁舎で、敷地面積一・一六六㎡、建築床面積二・六三㎡、一階は事務室、車庫、浴室等で、二階が仮眠室、食堂、更衣室等になっている。総工費九百九十二万八千円。又同出張所の水槽付消防ポンプ車と救急自動車は、出光産油(株)、支海福岡ライオンズクラブ他有志より寄贈されたもので、当日の式典では寄贈式も合わせて行われた。

この施設ができることで、新たな観光名所となり、また、地域のみならず、町の活性化につながることを目指しています。

(支海町企画室中野清徳記)

### 観光文化の拠点として 物産館文化施設を建設

町の観光、文化の拠点となる「観光物産館・文化施設」の建設工事がいよいよ始まり、観光の情報基地となる「観光物産展示ロビー」や、観光客や町民の憩いの場となる「喫茶コーナー」があります。

また、文化施設には、最大五〇〇人まで収容できる多目的イベントなどが行える円形の「大ホール」。小さな個展や展覧会などに利用できる「展示ホール」や町民待望の「図書室」があります。その他にも、大・小会議室、和室、調理室、工作室、視聴覚教材室など地域住民のニーズに合わせて利用できるような施設となっています。

この施設ができることで、新たな観光名所となり、また、地域のみならず、町の活性化につながることを目指しています。

(支海町企画室中野清徳記)



### 社務日誌抄

一月一日 歳旦祭  
九州旅客鉄道(株)社長石井幸孝氏外三十八名  
(宗)宗像青年会議所理事長中野和志氏外役員参拝  
一月二日 新年祭  
一月三日 元始祭  
一月四日 出光産油(株)福岡支店長長沖禎一郎氏・出光石油化学(株)福岡支店長小西章雄氏・アポロサービス(株)福岡営業所長山根泰二郎氏外関連会社社長等十七名参拝  
(株)新出光・新出光不動産(株)社長出光豊氏外三十八名参拝  
東北アポロ(株)宮正明氏参拝  
総合商事(株)宗像のがみ会館・山崎製パン(株)福岡工場・大和ハウス工業(株)福岡工場等参拝  
一月五日 福岡県交通安全協会会長木本敬次氏・福岡県警察本部交通部長笠原孝志氏外九十六名参拝  
(次ページへつづく)



宗像大社歌会

俳句作品集 (三三三)

藤沢 井上 玄洋
若松 井手 清隆
子の意見素直にうけて屠蘇
祝う

福間 森 清

名古屋 小田 喜一
浮子ひとり風の声聴く小春
かな

名古屋 小田 留子
小春日や温の長さ立話
瑞兆の色おだやかに初明り

福間 広渡一軒
そよ風の大きに舞う蜻蛉り
日の里 花田いつ枝
新薬の香のたちこもる連注
を編ふ

津屋崎 井浦 良介
津屋崎危機をあをりに梅の滯
る

鐘崎 岩瀬 辰夫
手袋で朝胸の惹を妻は採る



(続)



53

大荒れの冬の玄海

いししいただし



オヒルギの漂着 (矢印)

地球の温暖化か、一、二
度の寒波はあるが、最近
は冬という感じがしない。毎
年暖冬が続く。
福間管区気象台発行「平
成二年刊」の福岡気象(一〇
〇年を見と、明治・四年
(二八九)から三年(一

気温は確実に上昇している
だが、冬の前ぶれは、一
応十一月の上旬まで、こ
れはほとんど変わりがな
い。北西の季節風が吹きは
じめ、木枯し(号)と呼
ばれる。その時は気温も低
下し、海は大荒れである。
は随分変わった。

奥平側では護岸や埋立
てが急ピッチで行われ、こ
のヒルギ属と想定したが、は
飛行場側)は、沿岸流が浸
食を受けている。海岸にそ
てコンクリート柵状の遊歩
道が出来ているが、それを
ブロックを投入し、見事な
自然の砂浜が消えてしまっ
た。更に沖に、消波ブロッ
クを築いて、残念なが
らこの海岸も人工海岸に姿
を変えてしまっている。
波津側は汐入川まで、消
波ブロックでつながってし
まっている。沈下する消波
ブロックには、更にブロッ
クを積み重ねている。ここ
では浸食は深刻な問題とな
っているが、このままにな
つていく必要があらう。
さて、芦屋浜ではホウガ
ンヒルギが七十個と大量漂
着している。八十年一月
にここで二十個が漂着して
いるので、この海岸での大
量漂着は二度である。それ
に混じって緑色を呈した細
長い長さ十一センチから小
さいのは、五、六センチ、
幅一・二一・五センチの
ものが目についた。初めて

玄海沿岸各所に漂着したオヒルギ

表面を観察すると、一、
二ミリほどの円形をした石
灰質のものが点々と付着し
ている。
その他、コヨシ三個、
うち一個は完全なものであ
った。コバテイシ、オオミ
ナシキンハク、ニッパヤ
シ三個(クハクナツト)等
今迄、玄海沿岸で散発的に
漂着するもので、一度にこ
のような多量にわたって漂
着するのは珍しい、今回の
の玄海の荒れは、相当大き
いものであったことが分か
る。
その他、動物の遺骸とし
ては、芦屋・矢野川(北
にアカウミガメ(七、二×六
〇センチ)が一体漂着して
いた。

(社務日誌つづき)
西鉄運輸(株)・ヤマト運
輸(株)福岡支店・白幡運
送(株)福岡営業所・日本
通運(株)福岡航空支店・
西日本旅客鉄道(株)福岡
支社・西鉄旅行(株)等参
拜
一月六日 西九大運送(株)
宮田若宮地区安全運
管理者協議会等参拜
一月七日 西日本鉄道(株)
長門屋敷之助氏外二〇
〇名参拜
(株)シユテルン福岡社長
出光芳秀氏外二十名参
拜
堀川バス(株)・航空自衛
隊西部航空施設隊・(株)
クボ福岡支店・協和
発酵工業(株)九州支社等
参拜
一月八日 出光興産(株)社長
出光昭介氏外二十五名
参拜
(株)武田運輸(株)・武田
運輸船舶安全推進會・
日本通運(株)九州支店等
参拜
一月九日 出光・デュボン
(株)社長鈴木一己氏・營
業部長大瀧徹夫氏・製
造技術部長菅原博三氏
参拜
一月十日 出光興産(株)
出光興産(株)会長大和勝
氏外六名参拜
出光地熱開発(株)九州事
務所社長山本博氏外六名
参拜
山元商事(株)社長山元義
晴氏・同安全協議会力
石秀雄氏外六名参拜
北九州コカ・コーラボ
(株)九州支店・九州旅客
鉄道(株)自動車事業部等
参拜
福岡東中学校耐震訓練
一〇〇名参拜
一月十一日 出光興産(株)門
司支店長井手正俊氏外
七名参拜
宗像海運(株)代表取締役
竹内建三氏外関連会社
十一名参拜
ユニオン石油工業(株)代
表取締役山本光廣氏外
四名参拜
九州光運會一行二十名
参拜
北海アポロ(株)・日本た
ばこ産業(株)福岡支店等
参拜
一月十二日 出光石油化学
(株)徳山工場副工場長池
水宏氏外三名参拜
山崎製パン(株)福岡工場
成人祭七十五名参拜
宇土商店会一行分団
正月祭警備反省会
一月十三日 献米奉告祭
一月十五日 月次祭・成人
祭
宮田若宮地区交通安全
協會・福岡県トラック
協會・福岡市内安全管
理協議会等参拜
一月十六日 宗像新聞社編
集長眞原氏参拜
出光石油(株)常務取締役
篠田司郎氏外二名参拜
一月十七日 出光興産(株)
山崎油所長空井武雄氏
夫妻参拜
一月十八日 出光興産(株)
子士郎・同所長村基
子氏・同所長山貴氏
出光徳山建設夫全・同
海上輸送・同陸上輸送
協力会一行二十五名参
拜
出光興産(株)愛知製油所
長小野勝男氏外一名参
拜
九州液状瓦斯福島基地
(株)総務部長柴田順氏外
二名参拜
一月十九日 ユニオン(株)兵
庫工場長浅野雄司氏・
同千葉工場長加治英彦
氏参拜
伊勢湾シーバース(株)代
表取締役事務系永水雄
氏外二名参拜
城山興産(株)徳山事業所
長岸本満男氏外二十七
名参拜
一月二十日 宗像大社歌会新年会
像マラソン大会
二月一日 出光興産(株)
札幌支店副支店長細井
平一郎氏・同北海道製
油所副所長大庭勉氏・
北海道光運會十三社参
拜
二月二十日 環境庁水質規
制課長西牧均氏外五名
来社

まつりと生活 (三十四) 神社と自然保護

古来、日本人は美しい自
然をたたえ、緑の樹林が繁
茂する森や山を神々の鎮ま
る「神奈備山」とは、「神
体山」と仰ぎ、また樹林を
神々が依り給う依代として
神聖視し、長い間自然と共
に生きてきた。日本人
の自然観の根底には、神と
山、神と社、神と木が表裏
一体となっており、分ちら
ないものなのです。
このように神々の鎮まる
神奈備山、神体山の信仰は、
今日でも伊勢神宮の神路山
をはじめ、奈良・大神神社、
同じ春日大社の三笠山、
大分・宇佐神宮の御許山な
どに継承されています。
神奈備山と呼ばれる山なく
とも、日本各地の神々の鎮ま
る神社の社あるいは鎮守な
まが、古代から松・杉・杉
や檜・椎・樟・楠などに覆
われた常緑樹の森でありま
す。神社は、社殿を囲むよ
うにして繁茂するこの緑の
存在によって、初めて神社

私たちが日本人は、古代か
ら各村落共同体にある鎮守
の社を緑豊かな神体林に育
ててきました。また生活環
境の緑化にも配慮してしま
した。神社参道や各街道に
は、松、杉などの並木を植
えて往來の人々の便に供し、
河川堤防にも、桜などを植
え、洪水対策としました。
また家の周囲には庭木や屋
敷林を造成して生活を守っ
てきたのです。
全国各地の鎮守の社は長
い間神社と氏子たちによっ
て、保護・育成されてきた
ものでした。たとえは榊木・日光
東照宮の太郎杉の神木が、
国道拡張工事の為、国や県
からその伐採を要求された
とき、東照宮は裁判に訴え
て反対し、太郎杉を守りま
てきた主役です。日本の緑

の自然保護は、緑や森、樹
木を神と仰ぐ日本人の宗教
心に支えられ、すでに二千
年近い伝統と命脈を保って
いるのです。海を崇め、山
を崇め、花鳥風月を愛で、
日々の生活を私達日本人は
長い間自然と共に歩んでき
ました。
「人間は万物の霊長」と
あるという考えがあります。
他の動物植物に比べれば、人
間の多少の智慧の力は他に、類
を見ないでしょう。しかし
人間は万能でも、絶対でも
ありません。自然への畏敬
の念を忘れつつある現在、
緑の自然を象徴する神社を
通じて自然を大切にしたい
ものです。
Y・S 記

今泉秀氏来社
一月二十二日 出光興産(株)
高松支店長西川昭氏
九州光運會一行二十五名
参拜
一月二十三日 出光興産(株)
中国光運會十三社参拜
出光光運會十三社参拜
一月二十四日 文化財防火
隊防火訓練
出光興産(株)千葉製油所
副所長花田淳一郎氏・
千葉宗像会長小出善三
郎氏外十名参拜
出光興産(株)千葉計算セ
ンター所長御松泰氏外
一名参拜
出光興産(株)東京支店副
支店長竹内隆氏・東京
光運會二十九社参拜
長林史郎氏・名古屋支
店十五社参拜
石油運油(株)社長島本重
一氏外二名参拜
宗像記者クラブ懇談会
一月二十五日 出光興産(株)
新燃料部石炭研究室長
代理林本光氏参拜
出光バクターミナル
千葉事業所長長崎安氏・
山九(株)ヶ浦支店長中
谷晋二氏参拜
福岡海上保安部灯台課
長坂本勝邦氏参拜
一月二十六日 出光興産(株)
兵庫製油所長田嶋賢二
氏外二名参拜
出光興産(株)愛知製油所
業務課長大和賢氏・
出光興産(株)陸上輸送協力
会・同海上輸送協力会
六社参拜
海洋神事奉賛会初代会
一月二十七日 宗像大社
花会総会が魚屋
一月二十八日 出光興産(株)
札幌支店副支店長細井
平一郎氏・同北海道製
油所副所長大庭勉氏・
北海道光運會十三社参
拜